

酪農経営改善のための自給粗飼料の効率的な利用技術

TMR中の自給粗飼料割合を60%(乾物中)まで高めることで、飼料費を低減し、安定した乳量の生産が可能

背景・目的

※TMRとは、粗飼料と濃厚飼料を混合したもので、必要分量を全て含む飼料

- 酪農経営においては濃厚飼料や輸入粗飼料への依存度が高く、飼料価格の高止まりから収益性が悪化
- 比較的安価で安定的に生産可能な自給粗飼料の多給技術を開発し、飼料費の低減により酪農経営を改善

成果の内容

- TMR中の自給粗飼料割合を60%にしても、飼料利用性や乳生産性に影響なし
- 飼料単価を低減

期待される効果

- 飼料費の大幅な削減が可能
- 例: 平均搾乳牛頭数50頭規模で、TMR中の自給粗飼料割合を60%まで高めた場合の削減効果

- 濃厚飼料を削減した試算
飼料費の削減効果 148.5円/日/頭
 $148.5円 \times 50頭 \times 365日 = 271万円$
- 輸入粗飼料を削減した試算
飼料費の削減効果 189.2円/日/頭
 $189.2円 \times 50頭 \times 365日 = 345万円$

○普及対象・範囲
県内酪農家



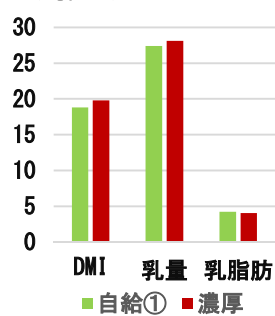
鹿児島県農業開発総合センター
畜産試験場大家畜部乳用牛研究室

※DMIとは、乾物摂取量

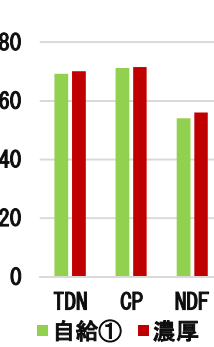
TMR中の飼料原料配合割合 (乾物%)

飼料原料		濃厚飼料削減試験	
		自給粗飼料区①	濃厚飼料区
トウモロコシイレージ	(自給)	50	30
イリアンイレージ	(自給)	10	10
オーツヘイ	(輸入)	—	—
アルファルファ乾草	(輸入)	—	—
トウモロコシ圧べん		20	24.5
大豆粕		18.5	16
一般フスマ		—	4
ビートパルプ		—	14
ミネラル・ビタミン製剤		1.5	1.5
栄養価	TDN	71.7	73.9
(設計値)	CP	16.1	16.2
	NDF	32.8	32.2

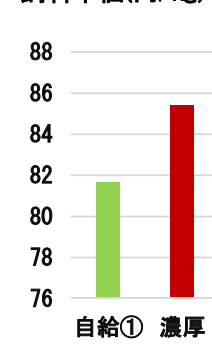
採食性と生産性 (kg, %)



消化率(%)



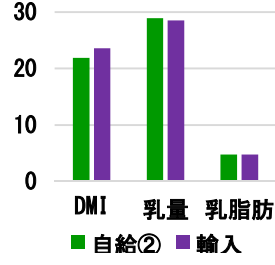
飼料単価(円/kg)



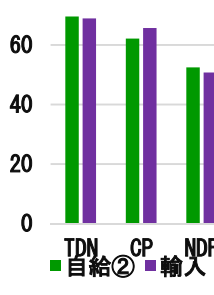
輸入粗飼料削減試験

飼料原料		輸入粗飼料削減試験	
		自給粗飼料区②	輸入粗飼料区
トウモロコシイレージ	(自給)	50	20
イリアンイレージ	(自給)	10	—
オーツヘイ	(輸入)	—	30
アルファルファ乾草	(輸入)	—	10
トウモロコシ圧べん		23	26
大豆粕		15	12
ミネラル・ビタミン製剤		2	2
栄養価	TDN	71.9	70.0
(設計値)	CP	14.6	14.4
	NDF	32.9	32.6

採食性と生産性 (kg, %)



消化率(%)



飼料単価(円/kg)

